



「家康は、むし歯に
悩んでいたのだろうか？」

高輪会は現在、約600の介護施設で、約1万人の患者様を、訪問診療しています。

医業とは、病を治し、心を癒し、人に愛されること。その為に、人間を学び、社会を学び、健康の「有り難さ」を学ぶのも歯科医の勤です。

戦国の日本を二つにまとめ、260年の平和国家の扉を開いた徳川家康。

彼の偉業の秘訣は健康にありました。そして、いつもメディカル・コンサルタントの

曲直瀬道三に医療のあり方を学んでいたのです。

全ての健康は、「歯の学び」から始まる。

高輪会は、訪問診療という
新しい歯科医療の仕組みで、
社会貢献を目指します。

医療法人
社 高輪会
dentalcruise

0120-648-714

医療法人社団 高輪会
www.takanawakai.or.jp



いつまでも自分の口で、
おいしく食べるために

人生の楽しみのひとつ「食べる」ことに欠かせないのは、歯だけではありません。嚥んで飲み込むために必要な、非常に多くの筋肉が機能していることも不可欠です。しかし残念ながら、足腰と同じように口や喉といった「食べる筋力」も加齢とともに衰えることをご存知でしょうか？

「口から食べる」ことが難しくなる状態を「摂食嚥下障害」といいます。全国で摂食嚥下障害のある要介護高齢者は40万人近くに達するという報告もあり、高輪会の訪問歯科でも頻繁にそのような患者様をお見掛けします。

食べる筋力が衰えることでかかりやすくなる病気もあります。本来は食道に入るべき食べ物や飲み物が、誤って気管に入ってしまう「誤嚥」によって引き起こされる「誤嚥性肺炎」です。70歳以上の肺炎患者の7割以上を占めるといわれ、高齢になるほど死亡リスクも高まります。

高輪会の訪問歯科では、最後まで安心して食事を楽しめる人生を送っていただけるよう、高齢者歯科の専門チームが「歯や口内を清潔・健康に保つケア」「食べる筋力を維持・改善するリハビリ」「最適な食事形態の見極め」をご提供しています。歯科医師と歯科衛生士に加え、摂食嚥下リハビリの専門家である言語聴覚士が在籍し、それぞれの強みを活かした多角的で質の高い診療に努めています。

さらに大きな特徴として、摂食嚥下障害が疑われる患者様に対し、食べる・飲み込む動作のどこにどういった問題があるか直接観察できるVE（嚥下内視鏡）検査を実施しています。「のどカメラ」とも言うべきこの検査は、安全管理や適切な診断スキルが必要で、通常は大学病院など大規模病院以外ではなかなか受けられません。高輪会では、臨床経験豊富な歯科医師が施設やご自宅へお伺いして行います。これにより、適切な食事形態や姿勢、リハビリ内容などの対応策を、さらに高精度に設計できるようになります。

臨床現場に身を置く一人として感じるのは、VE検査含め、摂食嚥下障害を適切に診断・指導できる医療者は、ニーズに対して少ないということです。だからこそ、食べる機能を衰えさせない予防がとにかく大切。筋肉が1年で約1%ずつ減っていくとされる40代以降は始め時です。

食べる機能をキープするには、ウォーキングなど全身の運動と栄養摂取を基本に、「話す」「歌う」など積極的に声を出すこと。お友達とテレビ電話でおしゃべりするの也不错ですね。お口の体操は、ほうれい線対策にもなるので美容を気にする方にとっても一石二鳥。もちろん、お口を清潔に保つ歯磨きも忘れずに！

もしお口の加齢を感じたり、食べるのが難しくなってしまうたりしても、どうか「仕方がない」と諦めないでください。予防を始めたり、摂食嚥下の専門家に相談したりしてみてくださいね。



岡島 雅美 Masami Okajima

医療法人社団 高輪会 人材企画部 教育研修課 口腔機能支援チーム チーフ言語聴覚士
施設などで摂食嚥下機能評価や訓練を行うとともに、法人内の歯科衛生士に訓練プログラムの助言も行っている。また、施設職員様や地域住人の方向けに、食事介助の方法や介護予防についてなど、摂食嚥下障害に関するセミナー講師に従事。